

東日本大震災 11周年記念の祈り

午後2時46分の黙想

—同じ時 想いを一つに 皆で祈りを—



—すべての逝去者、困難のうちにある方々を覚えて—

2022年3月11日（金）午後2時15分

※ 礼拝の開始時間（午後 2 時 15 分）は目安です。礼拝が始まってから福音書朗読が終わるまでは約 10 分程度です。説教または勧話を 15 分程度としますと、午後 2 時 46 分まで約 5 分程度の黙想時間となります。

それぞれの状況に応じて、時間を調整し、この式文の全体、あるいは一部を用いて、祈りの時を共にしていただければ幸いです。

表紙写真は、旧磯山聖ヨハネ教会境内地・祈りの庭「記念碑」

東日本大震災 11 周年記念の祈り

この祈りは午後 2 時 15 分から用いてもよい。

司式者は沈黙のうちに入堂する。

ともに集う

一同立つ。

司式者 父なる神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、皆さんとともに
会衆 また、あなたとともに

悔い改めの祈り

司式者 神はその独り子をお与えになったほどに、世を愛してくださいました。
この神の愛に応えるため、自らを省み、ともに罪の赦しを祈りましょう
ここで一同ひざまずく。しばらく自らを省みた後、一同で唱える。

一同 憐れみ深い神よ、わたしたちは、してはならないことをし、しなければな
らないことをせず、思いと、言葉と、行いによって、あなたと隣り人に対
して多くの罪を犯しています。どうか罪深いわたしたちをお赦しください。
新しい命に歩み、み心に従い、み栄えを現すことができますように、
救い主イエス・キリストによってお願いいたします アーメン

聖歌 第 425 番

聖歌 425 番

特 禱

司式者 主は皆さんとともに

会衆 また、あなたとともに

司式者 祈りましょう

天地の創り主である主よ、今わたしたちは東日本大震災の発生から満11年の日を迎え、共に祈るためにここに集いました。東日本大震災の地震と津波によって、そして東京電力福島第一原子力発電所事故によって大きな苦難を受けた人々のために祈ります。またその日から今日に至るまで、新型コロナウイルス感染症をはじめ、幾多の災害が日本国内において、また世界の各地で起こりました。その中で犠牲となった人々、また今なお困難な生活が続いている人々のことも思い、祈ります。どうぞあなたの慰めと励ましのみ力がそれら多くの人々の上にありますように。多くの災害とともに、争い、憎しみの絶えることのないこの世界にあって、わたしたちがあなたの創造の美しさを回復させるため、小さな器として用いられますよう、力と導きをお与えください。苦しみ、悩む人々と共に歩まれる主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

ともに聞く

司式者 聖書のみ言葉を聞きましょう

会衆は着席する。

第1朗読

朗読者 第1の朗読は、ゼカリヤ書第6章9節から

9 主の言葉が私に臨んだ。10 「捕囚の民であったヘルダイ、トビヤ、エダヤから贈り物を受け取りなさい。あなたはその日のうちに行って、バビロンから帰って来たツェファンヤの子ヨシヤの家に入りなさい。11 銀と金を受け取って冠を作り、それを大祭司ヨツァダクの子ヨシュアの頭にかぶらせ、

12 ^{かれ} ^い 彼に言いなさい。

『^{ばんぐん} ^{しゅ} 万軍の主はこう言われる。

^{わかえだ} ^な ^{ひと} 若枝という名の人がいる。

その人のもとから^め ^で芽が出

その人は主の^{みや} ^た宮を建てる。

13 ^{かれ} ^{しゅ} ^{みや} ^た 彼こそ主の宮を建て

^{かれ} ^{いこう} ^{おうぎ} ^つ ^{おさ} 彼こそ威光をまとい、王座に着いて治める。

^{おうぎ} ^{かたわ} ^{ひとり} ^{さいし} 王座の傍らに一人の祭司がいて

この^{ふたり} ^{あいだ} ^{へいわ} ^{おも} 二人の間には平和への思いがある。』

(ゼカリヤ 6:9-13)

朗読者 第1の朗読を終わります

詩 編 第50編 1-6節

1 ^{ぜんのう} ^{かみ} ^{しゅ} ^{かた} 全能の神、主は語り || ^ひ ^で ^{ところ} 日の出る所から ^{しず} ^{ところ} 沈む所まで ^{だいち} ^よ 大地に呼びかけられた

2 ^{かぎ} ^{うつく} 限りなく美しいシオン || ^{かみ} 神はシオンから ^{ひかり} ^{かが} 光を輝かされた

3 ^{かみ} ^こ 神は来られる、^{だま} 黙っておられる方ではない || ^{かた} ^{まえ} ^や ^つ ^ひ み前には焼き尽くす火、その
^{まわ} ^{はげ} ^{かぜ} 周りには激しい風

4 ^{かみ} 神はその民を審くため || ^{てん} ^ち ^よ ^よ 天と地を呼び寄せられる

5 「わたしの^{たみ} ^{あつ} 民を集めよ || ^{いけ} ^え ^{ささ} ^{けいやく} ^{むす} ^{たみ} いけにえを献げて契約を結ぶ民を」

6 ^{てん} ^{かみ} ^{せいぎ} ^つ 天は神の正義を告げる || ^{かみ} ^{さば} 神はすべてを審かれる

福音書

朗読者 マルコによる福音書 第2章 19節から

19 ^{かれ} ^い イエスは彼らに言われた。「^{はなむこ} ^{いっしょ} 花婿が一緒にいるのに、^{こんれい} ^{きやく} ^{だんじき} 婚礼の客は断食で
きるだろうか。^{はなむこ} ^{いっしょ} 花婿が一緒にいる間は、^{あいだ} ^{だんじき} 断食はできない。20 ^{しかし}、^{はなむこ} 花婿が
^と ^さ ^ひ ^く ^ひ 取り去られる日が来る。その日には、^{かれ} ^{だんじき} 彼らは断食することになる。21 ^{だれ} 誰も、
^{まあたら} ^{ぬの} ^{ぬの} ^き ^と ^{ふる} ^{ふく} ^ぬ ^つ 真新しい布から布切れを取って、古い服に縫い付けたりはしない。そんなこ

とをすれば、^{あたら}新しい^つ継ぎ^き切れが^{ふる}古い^{ふく}服を^ひ引き^さ裂き、^{やぶ}破れは^{いっ}そう^{ひど}ひどくな
る。22 また、^{だれ}誰も、^{あたら}新しい^{しゅ}ぶどう^{ふる}酒を^{かわぶくろ}古い^い革袋に入れたり^ははしない。そん
なことをすれば、^{しゅ}ぶどう^{かわぶくろ}酒は^{やぶ}革袋を^{しゅ}破り、^{かわぶくろ}ぶどう^{だめ}酒も^{あたら}革袋も^{あたら}駄目になる。新
しい^{しゅ}ぶどう^{あたら}酒は、^{あたら}新しい^{かわぶくろ}革袋^いに入れる^もものだ。」 (マルコ 2:19-22)

朗読者 ^{ふくいんしよ}マルコによる^お福音書を^お終わります

^{かんわ} ^{せつきょう}
* 勧話または説教

勧話または説教をする。

^{ちん} ^{もく}
* 沈黙

午後2時46分まで沈黙のうちに待つ。

^だ ^{しょう}
* 打鐘

午後2時46分に鐘を鳴らす。

一同、鐘とともに立ち、1分間、黙禱の時を持つ。

黙禱後、次の唱和を用いる。

司式者 ^{ひがしにほんだいいんさい}東日本大震災による^{ぎせいしゃ}すべての犠牲者^{おぼ}を覚えます

^{しゅ}主よ ^{えいえん}永遠の^{へいあん}平安を^{ひとびと}この人々に^{あた}与え

会衆 ^た絶えざる^{ひかり}み光^てをもって^て照らしてください

^{しとしんきょう}
使徒信經

一同立ち、歌いまたは唱える。

わたしは、^{てんち}天地の^{つくぬし}造り主、^{ぜんのう}全能の^{ちち}父である^{かみ}神を^{しん}信じます。

また、^{ひと}その^ご独り子、^{しゅ}わたしたちの^{しん}主イエス・キリストを^{しん}信じます。主は^{しゅ}聖靈^{せいれい}によっ

て宿^{やど}り、おとめマリヤから生^うまれ、ポンテオ・ピラトのもとで苦^{くる}しみを^う受け、十^{じゅう}字^じ架^かにつけられ、死^しんで葬^{ほうむ}られ、よみに^{くだ}降り、三^{みつ}日^{かめ}目に^し死人^{しにん}のうちからよみがえり、天^{てん}に昇^{のぼ}られました。そして全^{ぜん}能^{のう}の父^{ちち}である神^{かみ}の右^{みぎ}に座^ざしておられます。そこから主^{しゅ}は生^いきている人^{ひと}と死^しんだ人^{ひと}とを^{さば}るために^こ来^こられます。また、聖^{せい}霊^{れい}を^{しん}信^{しん}じます。聖^{せい}なる公^{こう}会^{かい}、聖^{せい}徒^との交^{まじ}わり、罪^{つみ}の赦^{ゆる}し、体^{からだ}のよみがえり、永^{えい}遠^{えん}の命^{いのち}を^{しん}信^{しん}じます アーメン

平和の挨拶

司式者 キリストはわたしたちの^{へい}和^わです

会衆 わたしたちは主^{しゅ}のみ名^なによって出^で会^あい、主^{しゅ}の^{へい}和^わを分^わかち合^あいます

司式者 ^{へい}和^わの^{あい}さつ^かを交^かわしましょう

ここで、互いに「主の平和」と唱えて挨拶を交わす。

献げもの

ここで次の言葉を用いてもよい。あるいは他のふさわしい言葉か聖句を用いてもよい。

司式者 主^{しゅ}の救^{すく}いのみ業^{わざ}に感^{かん}謝^{しゃ}し、と^{さん}もに^び賛^{さん}美^びを^{ささ}げましょ

信施はここで集める。その間に聖歌を用いてもよい。

信施を献げるときは、以下の言葉を歌いまたは唱えてもよい。

司式者 すべてのものは主^{しゅ}の^{たま}もの^{もの}

一同 わたしたちは主^{しゅ}から^う受^うけて主^{しゅ}に^{ささ}げた^たのです アーメン

とも^{いの}に祈る

司式者は次のように言う。会衆の代表者が言ってもよい。

司式者 救^{すく}い主^{ぬし}イエス・キリストのみ言葉^{ことば}とみ業^{わざ}に頼^{たよ}り、全公会^{ぜんこうかい}のため、また世^せ界^{かい}のために、こと^{こと}に東日本大震災^{ひがしにほんだいいんさい}を覚^{おぼ}えて祈^{いの}りましょう

司式者 慈^{いつく}しみ深^{ふか}い神^{かみ}、慰^{なぐさ}めの主^{しゅ}よ、今^{いま}、わたしたちは11年^{ねん}を経^へた東日本大震災^{ひがしにほんだいいんさい}を覚^{おぼ}えて祈^{いの}ります。どうか、被災地^{ひさいち}にある人^{ひと}、避難生活^{ひなんせいかつ}を強^しいられている人^{ひと}、特に日本社会^{ほんしやかい}の中で生きること^{なか}の困難^いに苦しむ人^{こんなん}、将来^{くる}の希望^{ひと}を見^{しやうらい}い出^きせない人^み（こと^{こと}に——）を支^{ささ}えてください

会衆 主^{しゅ}よ、お聞^ききください

司式者 原子力発電所事故^{げんしりょくはつでんじよじこ}により、失^{うしな}われた自然^{しぜん}と人々^{ひとびと}の生活^{せいかつ}を覚^{おぼ}えます。故郷^{ふるさと}を離^{はな}れて生活^{せいかつ}する人^{ひと}、危険^{きけん}な作業^{さぎょう}に従事^{じゅうじ}する人^{ひと}とその家族^{かぞく}をお守^{まも}りください。そして政治^{せいじ}と社会^{しゃかい}に責任^{せきにん}を持つ人々^もに正^{ただ}しい道^{みち}を歩^{あゆ}ませてください

会衆 主^{しゅ}よ、お聞^ききください

司式者 わたしたちもまた、これらの苦難^{くなん}をつねに覚^{おぼ}えることができますように。日本聖公会^{にっぽんせいこうかい}の被災者支援^{ひさいしやしえん}の働^{はたら}きを強^{つよ}めてください。そしてわたしたちも思^{おも}いと力^{ちから}を合^あわせて、共^{とも}に歩^{あゆ}み続^{つづ}けることができるように導^{みちび}いてください

会衆 主^{しゅ}よ、お聞^ききください

司式者 いのちの源^{みなもと}である主^{しゅ}よ、東日本大震災^{ひがしにほんだいいんさい}のすべての犠牲者^{ぎせいしや}、そして世界^{せかい}各地^{かくち}の災害^{さいがい}と争^あいの中^{なか}で生命^{いのち}を失^{うしな}った人々^{ひとびと}を、あなたのみ腕^{うで}の中^{なか}に抱^{いだ}き、永遠^{えいえん}の安^{やす}らぎを与^{あた}えてくださいますように

会衆 主^{しゅ}よ、これらの祈^{いの}りを主イエス・キリストのみ名^なによってお願^{ねが}いいたします。アーメン

主の祈り

一同ひざまずく。

司式者 主よ、憐れみをお与えください

会衆 キリストよ、憐れみをお与えください

司式者 主よ、憐れみをお与えください

次に一同、主の祈りを歌いまたは唱える。

天におられるわたしたちの父よ、

み名が聖とされますように。

み国が来ますように。

みこころが天に行われるとおりに地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。

わたしたちの罪をおゆるしてください。わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑におちいらせず、

悪からお救いください。

国と力と栄光は、永遠にあなたのものです アーメン

感謝

司式者 ともに祈りましょう

すべてのものの源である神よ、あなたは遠く離れていたわたしたちを、み子との出会いをとおして主の家に招いてくださいました。このあなたの愛に感謝し、み名をほめたたえます。あなたからいただいたみ言葉と恵みと平和を、わたしたちがすべての人びとと分かち合うことができますように。そして聖霊の導きにより、あなたの光でこの世界を照らす働きに与らせてください。またあなたがわたしたちに与えてくださった希望を変わることなく保たせ、すべてのものがみ名をほめたたえることができますように、主イエス・キリストによってお願いいたします アーメン

主とともに行く

終わりに司式者は次のように言う。

司式者 ^{かぎ}限りない^{あい}愛と^{めぐ}恵みの^{かみ}神が、^よ世にある^{ひと}人と^よ世を去った^{ひと}人との^{ぜんこうかい}全公会を、^こみ子
^{イエス・キリスト}イエス・キリストによる^{ふっかつ}復活と^{くに}み国の^{よろこ}喜びに^{みちび}導いてくださいますように
会衆 **アーメン**

派遣の唱和

一同立って、次の唱和を用いる。

司式者 ^{かみ}神と^{ひと}人にと^{つか}に仕える^いために行きましょう
会衆 ^{しゅ}主のみ^な名によって **アーメン**

ここで聖歌を用いてもよい。

聖歌 第476番

聖歌 476 番

この式文は、日本聖公会祈祷書別冊諸式『み言葉の礼拝』、
『日本聖公会聖歌集』(2006年)、『聖書 日本聖書協会共
同訳』(2018年)から抜粋したもので、日本聖公会東北
教区主教 主教 ヨハネ 吉田雅人が、救主降生 2022年3
月11日の東日本大震災11周年記念の祈りでの使用を許
可したものである。

